
達人リコメンドの四国～エンド・エクスプローラー

1、プロローグ

旅の提案。四国の隅々まで知っていますか？そんなあなたにオススメ。

最先端(エンド)を旅しませんか？四国最南端は高知の足摺岬、西のエンドは愛媛の佐田岬、北の果ては香川の竹居岬、最東端は徳島の蒲生田岬です。1ヶ所巡れば1つ星、2ヶ所回れば2つ星。東西南北4つのエンドと、天空へのエンド・最高峰の石鎚の天狗岳と合わせて全てを周れば5つ星・・なんて、最果ての地を巡る旅はいかがでしょうか？

2、最南端・足摺岬(高知県土佐清水市)



平成23年ゴールデンウィークの旅のテーマは、エンド・エクスプローラー。

足摺岬から地図の左側に位置する西海岸を巡る旅を組み立てました。スタートは、中村から四万十川の流れに沿って国道321号で土佐清水に向かいます。

ところで、四万十川を四国最長の川と表現していますが、疑問に思いませんか？関東の利根川が坂東太郎、九州の筑後川が筑紫二郎で、四国三郎と呼ばれる吉野川を忘れちゃダメですよ。流域面積では吉野川がダントツですが、長さはこちらが194kmに対して、四万十川が196kmとほんの少しだけ勝っているようです。吉野川をピーアールする徳島県の観光関係者は、「高知県は、宣伝がうまい！」なんて悪口言っていました。河川改修で3kmほど蛇行させてみてはいかがでしょうか。四万十川は蛇行して四国最長の196km。けれど河口の下田の渡しから、不入山(いらずやま)の源流まで直線距離で60km程度しかなく、大きな護岸工事もせず、流域にダムが無いから最後の清流と呼ばれているそうです。



さて、土佐清水からスカイラインで足摺岬へ。最大の見どころは、天狗の鼻から展望する灯台。21世紀に残したい四国一の眺望が、最南端のこの場所です。金剛福寺をお参りして、足摺黒潮市場で清水サバの刺身を食べ、西海岸を進みます。

3、最西端・佐田岬(愛媛県伊方町)

黒潮の道・足摺サニーロードを西に進む。竜串・見残しというメジャーな観光地は飛ばして、叶崎から太平洋を展望。大月に入って大堂海岸方面へ。観音岩・柏島を展望して、野生のお猿と戯れます。



大月から宿毛を越えて、愛媛県愛南町に入ります。まずは、宇和海展望タワーよりリアス式海岸を展望。ゼロ戦展示館に入って、石垣の里「外泊」に進みます。棚田とか段々畑は見たことがあると思いますが、石垣を積み上げた家の段々は初めてで、一見の価値ある集落で、この石垣は台風など

から住民の暮らしを守っているそうです。



また、周辺の海は、サンゴが生息し四国一の透明度を誇ります。宿泊は、そんな宇和海にある民宿で、伊勢海老にヒオウギ貝、本マグロ、カツオにうちわ海老、カメの手、サザエに法螺貝など海の幸を満喫。翌朝は、高茂岬から太平洋を展望。

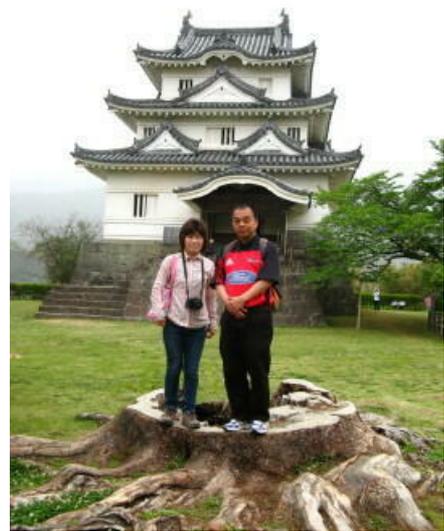




予定では、この後は南樂園から由良半島を巡るつもりが、雨に阻まれ予定変更。宇和島市内を観光することにしました。宇和島と言えば、牛鬼・闘牛・じゃこ天？今回の選択は、宇和島城観光。



現存12天守って知っていますか？日本の城の天守閣のうち、江戸時代またはそれ以前に建設され、現代まで保存されているものを示し、弘前城(青森)松本城(長野)丸岡城(福井)犬山城(愛知)彦根城(滋賀)姫路城(兵庫)松江城(島根)備中松山城(岡山)と四国の4つの城を言います。香川の丸亀城、高知の高知城に、愛媛からは、松山城と宇和島城で12か所になります。



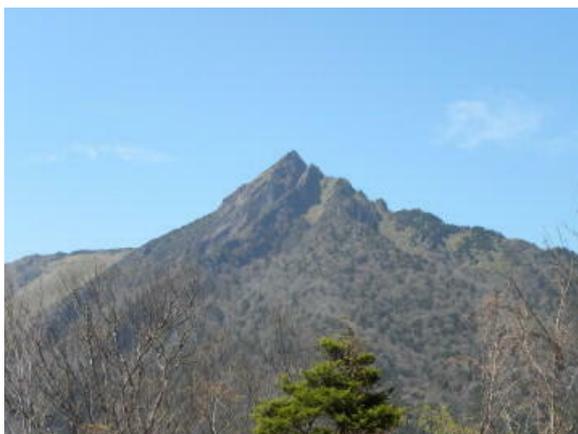
宇和島城は、登城口も民家と軒を並べ、小高い丘の上から四周を展望する為のランドマーク的存在で、「歴女」なる知的階級からは、鎧兜(よろいかぶと)の似つかわしくない城なんて評価されたそうです。ちなみに、そんな情報を教えてくれたのは「うわじま道先案内人の会」のボランティアガイドさん。宇和島の素晴らしさを語り、最高のショットでの撮影ポイントを教えてくれるだけでなく、シャッターまで切ってくれます。「私たちは、知っていることだけお話しします。自分の住む宇和島が大好きで、日本全国の皆さんがここに来てくれて、一緒にお話できることが楽しいのですよ。」ほんとと愛ある愛媛を象徴するようなガイドさんに出会えて、得した気分になりました。



ところで四国最西端は、宇和島の先、八幡浜より197号(佐田岬メロディーライン)を西に50km終点到車を止めて歩いた先の佐田岬灯台です。一応2年前に訪問しましたが、風力発電の風車がたくさん並んでいた事と、三崎港からの道路は細かったのと、駐車場から灯台までの道のりの高低差が激しく、ともかく遠くて汗だくになったことと、海峡を隔てて九州が見えた事だけ覚えています。

4、最高端・天狗岳(愛媛県西条市)

最高峰は、海拔1982mの石鎚山・天狗岳。昨年登頂しましたが、違った季節に登ってみたいと思える神域です。



5、最北端・竹居岬(香川県・高松市)

今年の旅は、宇和島から大洲、内子のお気に入りの松乃屋旅館で羽根を伸ばして、翌日は新居浜から翠波高原経由で金砂湖から、銅山川に沿って下り、山城・池田経由で高松へ。

高松と言えば、セシール、マルナカ、百十四銀行、宮脇書店、穴吹工務店？

いえいえ、平成の大合併から「世界の中心で愛をさげぶ」のロケ地の庵治を忘れちゃいけません。

四国最北端は、そんな庵治半島の突端の竹居岬です。四国最北端のモニュメントがあって、竹居観音なるお寺があって、磯の香りが漂う道を進めば洞窟まである。ただ、それだけですが、エンド・エクスプローラーを完成する為の必須の場所。旅の目的を達成しました。



平成23年5月13日記(旅は5月1日～5日)

6、最東端・蒲生田岬(徳島県・阿南市)

最東端は蒲生田岬。ウミガメの来る浜があって、急な階段を登り切れば灯台があって、少し戻れば大海原を見渡せる露天風呂の船瀬温泉です。

施設発行のリーフレットによると「船瀬温泉には秘湯という銘に納得するほどの眺望が待ち受けている。眼前には歴史を感じさせる椿泊の港が見え、そこは古く紀貫之の土佐日記にも登場する港町で、江戸時代から明治まで阿波水軍総帥・森甚五兵衛の拠点として栄えた。温泉からはそんなロマンを感じさせる椿泊の松鶴城跡や、菩提寺である福蔵寺が見える。遠く、紀伊水道を挟み、淡路島、和歌山県を望み、秋の良く晴れた日には、大鳴門橋まで見える。」と記されています。今回は天候に恵まれませんでした。それでも眼前に絶景が広がる達人リコメンドの湯船でした。





また、宿泊は対岸の椿泊の民宿へ。予約を入れると、漁協付近まで来たらお迎えに上がりますから電話下さいと・・・陸路から敵が攻めてくるのを防ぐために道を狭くしているという噂は聞いていましたが、漁協付近に車を停めて、お迎えの軽自動車に乗り換えると噂通りのラビリンス。こっそり侵入したら、自家用車が傷だらけになりそうな運転手泣かせの狭い道。

民宿に到着して、噂に聞いたお魚三昧の夕食にトライ。献立は、ヒラメとイトヨリ鯛の活造り、アワビ・イカ・タコのお刺身、大型サザエの壺焼き、いさきの塩焼き、グレの煮付け、海老の天麩羅、小振りな伊勢海老のお味噌汁と、噂以上の海の幸攻撃に、お箸を置いて「よっしゃ、今日はこれくらいにしといたろ！」と、関西人として、最高の称賛のセリフを残してごちそうさまでした。

評価は、星5つ。エンド・エクスプローラー達成の星5つと合わせて、四国の素晴らしさを体感しました。

エンド・エクスプローラーという提案・・・これこそが、四国を愛する達人からのリコメンドの旅です。まずは、行ける場所からスタートすれば良いですから、一度お試しあれ。

平成23年5月13日記(旅は3月20日～21日)

Top
トップ
へ

Back
戻る



[達人リコメンドの四国\(続・四万十川編\)](#)